



インフルエンザ治療薬

インフルエンザはかぜ症候群に比べ、急激な発症に始まり、全身症状が強く、気管支炎・肺炎など併発し重症化するケースの多い疾患です。またインフルエンザは流行が始まると、あっという間に乳幼児から高齢者まで膨大な数の人間に感染してしまいます。2009年の新インフルエンザ大流行では、日本国内でも亡くなられた方はおりましたが、欧米諸国では一万二千人を超える多くの人々が亡くなっています。

2010年10月19日、日本国内で初めて開発された薬剤として「イナビル」というインフルエンザ治療薬が発売され、現在では「タミフル」、「リレンザ」、「ラピアクタ」にくわえて四番目のインフルエンザ治療薬（ノイラミニダーゼ阻害薬）として使われています（A型に効果のあるアマンタジンを除く）。

日本国内での死亡者数が欧米諸国に比べ極端に低いのは、このノイラミニダーゼ阻害薬での早期治療により重症化を防ぐことが出来たためだと言われています。

インフルエンザウイルスは、ちょうどウニのような突起をもった構造をしていて、喉の粘膜などの細胞に入り込み、感染します。細胞に入り込んだインフルエンザウイルスは、自分と同じウイルスのコピーを感染した細胞内にたくさん作っていきます（これを複製といいます）。感染した細胞から複製されたウイルスが放出され、また別の細胞に入り込んで細胞内で増殖して感染を広げていきます。ノイラミニダーゼとはインフルエンザウイルスの突起にある物質のことで、感染した細胞からウイルスが外に出る際に感染細胞の膜を破る働きをします。先に紹介したインフルエンザ治療薬は、このノイラミニダーゼの働きを阻害し、ウイルスが増殖しないよう作用します。そのためウイルスが増殖する前である、発症してから48時間以内に投与する必要があります。

◆治療薬について（薬価は2011年10月現在のものです）

「タミフル」（一般名：オセルタミビル）

成人は1カプセル（75mg）を、小児はドライシロップ（体重により量が決まる）、1日2回、5日間内服する飲み薬です。（感染予防の使い方もあり）。

成人の5日分の薬価は3091円。

「リレンザ」（一般名：ザナミビル）

成人、小児ともに1回2プリスター（10mg）を1日2回、5日間使用する吸入薬です。吸入薬がしっかり使えることが前提となります（5歳以上が望ましい）。口の中に残った薬剤は、飲み込んでも消化液で分解されるため効果はありません。（感染予防の使い方もあり）。

5日分の薬価は3374円。

「ラピアクタ」（一般名：ペラミビル）

成人は、1回300mg（小児は体重により決まる）を15分以上かけて点滴静注。（基本的には1回のみ注射ですが、重症例では1回600mg、症状に応じ連日投与することもある）。

点滴用バッグ（300mg）1回分の薬価は5634円。

「イナビル」（一般名：ラニナミビル）

成人及び10歳以上の小児は40mg（20mgを2本）、10歳未満の小児は20mg（20mgを1本）を1回だけ使用する吸入薬です。1回の吸入で効果が期待できるのが特徴です。

成人の1回分40mgの薬価は4161円。

タミフルと異常行動との因果関係は完全に否定されたわけではありませんので、上記薬剤使用後少なくとも2日間、保護者の皆様方は小児・未成年者のお子様は1人にならないようご配慮ください。

